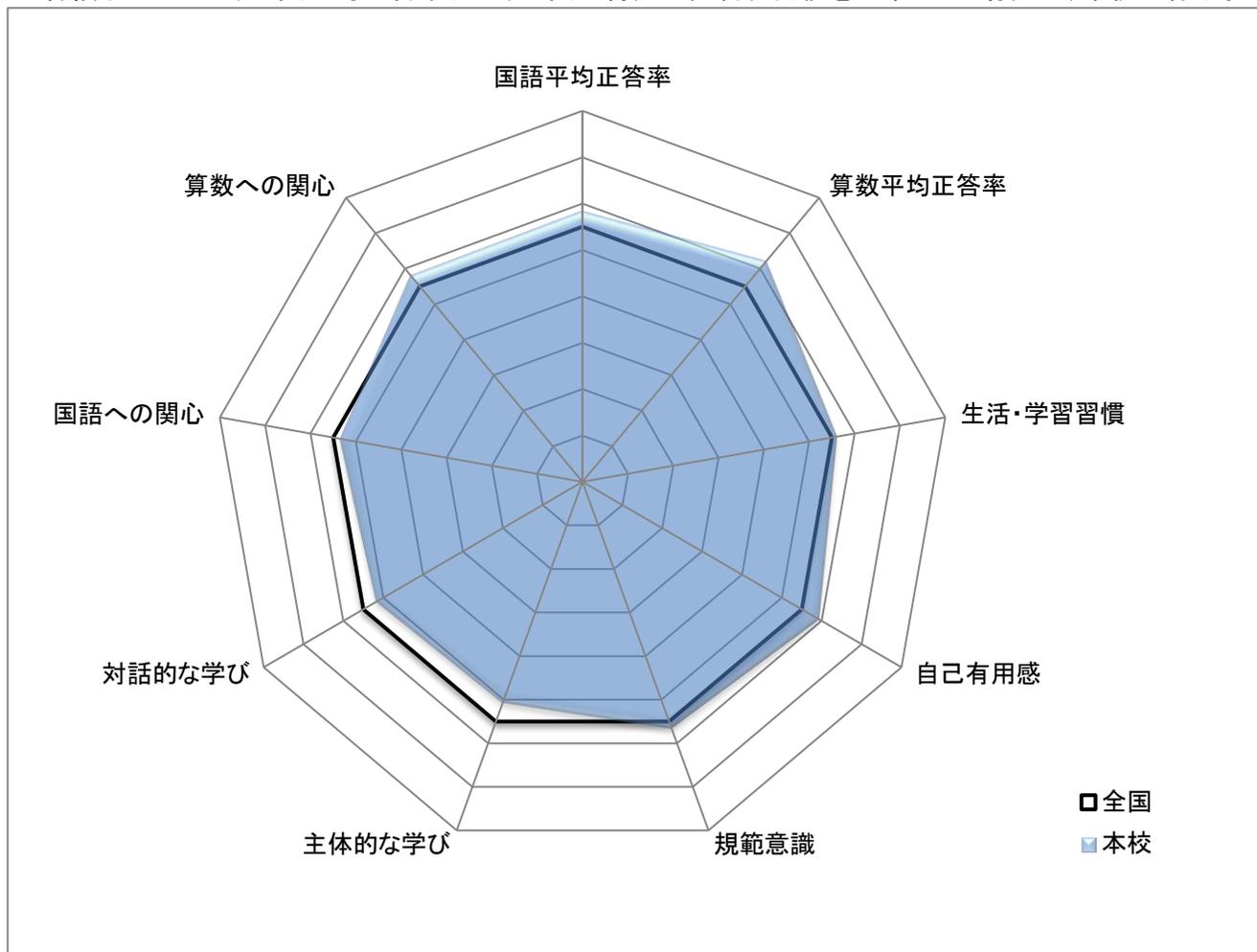


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語ならびに算数において、全国平均正答率（以下、平均）を上回った。算数への関心については8割以上の児童が肯定的な回答をしており、全国平均を大きく上回っている。国語科への関心においては、すべての質問において肯定的な回答の合計値が平均を下回る結果となった。また、主体的な学び、対話的な学びに関する質問においても平均を下回っており、大きな課題である。その中でも自分の考えを発表する機会について、うまく伝わるように工夫していたかという質問に関して、特に値が低いことが明らかになった。

《授業改善のポイント》

国語は、これまで校内研究で行ってきた「対話的な学び」を大切に今後も、他の教科・領域等においても友達との話し合いを通し、自分の考えを深めたり広げたりする学習活動を意図的・計画的に実施していく。算数は、少人数による習熟度別指導のさらなる充実を目指し、今後も全国平均正答率を上回るよう、デジタル教科書や書画カメラを活用して分かる授業の日常化を図る。主体的な学びに関しては、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等を通して、児童が自ら課題を見付け、解決していくために、児童にとって必要感のある課題の提示や、個に応じた学習支援の在り方を工夫していく。また、学級内で、より良い人間関係を育ませることで、自己有用感を高め、自信をもって何事にも取り組んでいくことのできる素地を養っていく。

《チャートの特徴》

国語における正答率は、全国平均正答率に近い値となっており、算数に関しては、大きく上回っている。このことから教科間での正答率の差が見て取れる。質問紙による肯定的回答合計値では、生活習慣、学習習慣、規範意識への関心は全国平均とほとんど差がない。しかし、自尊感情、家庭での学習週間、国語への関心においては全国平均を下回った。自尊感情については、自分のよさを意識できている児童が約8割、将来の夢や目標をもっている児童に関して約9割で、平均以上であるため、引き続きキャリア教育の視点で指導を行っていく。言語活動は、自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするに對して肯定的な回答をした児童が6割であった。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、今後も進めていかなければならない。

《家庭・地域への働きかけ》

江戸川区で実施している生活リズム点検・家庭学習週間を活用し、望ましい生活習慣や家庭学習習慣が身に付くよう働きかける。また、体験的な学習活動の充実を目指し、地域の専門家による授業を広く取り入れていくよう、地域の教育資源の掘り起こしに努める。